令和６年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立　　沼　　中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、３年生を対象として、令和６年４月１８日（木）に、「教科（国語、数学）に関する調査」、文部科学省が指定した日（４月１０日から４月３０日の間）に「生徒質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

１．調査の目的

⑴　義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。

⑵　学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

⑶　そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

２．調査内容

⑴　教科に関する調査（国語、数学）

教科に関する調査（国語、数学）
①　身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等 ②　知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

⑵　生徒質問調査

生徒質問調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

３．教科に関する調査結果の概要

⑴　全国・本市の学力調査（国語、数学）の結果

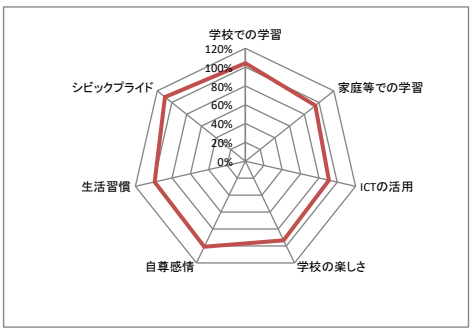
本年度の結果	国語		数学	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.5	57	7.8	49
全国	8.7	58	8.4	53

⑵　本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な 傾向や特徴など	・文脈に即した漢字を書くことや話合いの話題や展開を捉え、他者の発言と結び付けて自分の考えをまとめる問題の無回答率が高かった。 ・話すこと・聞くこと、我が国の言語文化に関する問題の正答率が高かった。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	・話すこと・聞くこと、表現の効果を考えて描写する問題。	
	努力が必要な問題	・言葉の特徴や使い方に関する問題、文の成分や照応についてが課題である	

数学	全体的な 傾向や特徴など	・数学的な表現を用いて説明すること、目的に応じて式を変形したり、事柄が成り立つ理由を説明する問題の無回答率が高かった。 ・4領域ともに平均を下回っているが、資料から分布の傾向を読み取る問題は正答率が高い。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	・データの活用の領域で、複数の集団のデータの分布の傾向を比較して捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する問題。	
	努力が必要な問題	・図形領域全般の問題、数と式の領域の文字式に関する問題に課題がある。	

4．学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要



質問調査の結果分析
・「友達関係に満足しているか」「学校に行くのが楽しい」との問いに対しては全国平均を下回る肯定的な回答であった。 ・「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりすること」「各教科で学んだことを生かしながら自分の考えをまとめる活動」については８割以上の生徒が肯定的な回答をしている。今後も学校全体で授業改善を進め、生徒が「わかった」「おもしろい」と思える授業にすることが必要である。 ・「ICTを活用している」と回答した割合が低かった。今後は教師からの提示だけではなく、生徒が活用できるよう啓発していく。 ・「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」の問いに関しては高い回答であった。コロナ以降、少しずつ地域行事に参加する傾向にあると感じる。

5．調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

①　教科に関する取組

・授業中、自分の考えを発表する機会では自分の考えがうまく伝わるように資料や文章、話の組立てなどを工夫させる活動を授業でも継続的に意識して取り組んでいく。
・これまでもICTの活用においては、職員の「互見授業」で研修を行っているが、さらに全校体制で取り組めるよう研修を重ねていくとともに、内容についても検討が必要である。

②　家庭生活習慣等に関する取組

・毎日の家庭学習「沼ノート」として自学の取り組みを行ってはいるが、活用の仕方については今後検討が必要である。また定期考査前は家庭の協力も得ながら、自分で計画を立てて学習する習慣をつけさせたい。
・毎日の朝食を摂ること、家庭でのスマホやゲームに使われている時間の改善については、家庭にも呼びかけを行う必要がある。